

5月 新任職員合同研修

「医療チームの一員としての役割」

☆何故この時期にグリーンケア研修を取り入れたのでしょうか？

今この時期だからこそ、患者さん、ご家族の思いを知ることは大切です。新任者一同が、患者さんやご家族が経験する、はかり知れない苦悩や不安を早期に疑似体験することで、それぞれの立場で一人ひとりが感じること、今できることは何か、チームの一員として何ができるのか役割を明確に考えることができる第一歩だと考え研修を企画しました。

院内職員研修委員会



講師

グリーンケアアドバイザー 特級

本田理恵

(3B病棟副看護師長)

看護師、医師、放射線技師、薬剤師、検査技師、事務、
コメディカルなど総勢 80 名が参加しました。



あなたがこの患者さんの
担当医師だったら、担当看護師だったら
どうしますか？

チームの一員として、
どのように考えますか？
どのように行動しますか？



「医療チームの一員としての役割」の研修を終えて

今月は《手術室、ICU》の新人スタッフの感想です。

- ※ 私は今回の研修を通して、末期の患者さんと看護師がどのように関わるべきか、またそれが私自身であったら・家族であったらと考えることができました。まだ明確には答えは出ていないが、これから多くの患者と関わる中で考え続けていきたいと思えます。 千野
- ※ 今回の研修では、疑似喪失体験を通し精神面でケアしていくことが必要であり、考えていくことが大切だと考えることができました。 渡辺
- ※ 疑似喪失体験をすることで、看護師は患者の希望を少しでも叶えられるように、看護の方法を検討していく必要があると考えました。 望月
- ※ 患者さんの精神状態を理解したことで、看護師として患者さんとどう関わっていけば良いかを考える良い機会となりました。各々の専門性を理解し、また、専門性を充分発揮するためには、連携して患者さんの治療、看護等を実施していかなければいけないと感じました。 武田
- ※ 事例を基に、終末期にある患者さんとその家族の看護について考える事ができました。対象者とその家族の希望に沿って、看護と医療の方向性を照らし合わせながら、チームでコミュニケーションを図り、より患者さんの意思を尊重した医療と看護をしていくことの大切さを学びました。 中嶋
- ※ 病気と向き合うということは言葉では言い表せないくらい辛く苦しいことだと感じました。患者と家族の気持ちを受け止め、患者・家族の希望をチームで支えていく事が大切だと思い、そのためにはチームでコミュニケーションを図り連携していくことが必要だと学びました。 羽田